

夏季鉄研旅行「坊っちゃん旅行記」 高1B 鳥越 智輝

この学校の旅行・鉄道研究部では、おもに青春18きっぷという『5日間 JR 線の快速・普通列車が乗り放題』のきっぷを主に使用しています。そのため一般人では考えられない行程の旅行なので、その点をどうぞよろしくお願いいたします。

1日目の8月4日の21時ごろ、まず18きっぷで乗車可能な快速ムーンライトながらという夜行に乗るため東京駅に向かった。22時30分ごろに東京駅の10番線に到着した。

まだほかの部員はまばらであり、自分で作り採用された旅行であるのにあまり人がこないのかな、と思い残念に思った。



↑これが18きっぷで乗車可能なムーンライトながら。

車両は183系の10両編成で、
全座席リクライニング付きシートである。

23時10分に東京駅を出発した。途中、小田原駅や静岡駅・浜松駅などに停車しながら翌日、2日目の8月5日の午前5時55分に大垣駅に到着した。

大垣駅の乗り換えは、席取り合戦で有名な大垣ダッシュがある。

3分ほどの乗り換えで5時58分発快速播州赤穂行に乗り米原駅に向かった。

車内は、僕たちと同様に旅行者で混んでいた。

米原駅で午前6時34分発新快速播州赤穂行に乗り換えて一路相生駅に向かった。
米原駅からは12両編成なので窓側に座ることができた。

1時間ほどで京都駅に停車し、大阪駅や三ノ宮駅に停車しながら相生駅に向かった。
京都駅で多くの乗客が下車したことは覚えているが、その後は眠ってしまった。

3時間ほど乗車して相生駅到着間際になり飛び起きて普通岡山行に乗り換えた。
相生駅からは新快速の12両編成から岡山行の短編成4両に乗り換えるので、車内は
首都圏の通勤ラッシュ並の混雑になっていた。

相生駅から1時間ほど乗車して、岡山駅に到着した。
この区間でも寝てしまったので、外の景色はあまり覚えていない。
岡山駅の駅弁の瀬戸内名物あなごめしときびだんごを購入して、快速マリンライナー
23号のホームに向かった。

日曜日の10時ごろということもあり、非常に混んでいた。

マリンライナー23号は10時53分に出発し、11時34分に坂出駅に到着した。
坂出駅では11時59分まで25分間の乗り換え時間があった。
駅のキオスクでペットボトルのお茶を購入して、ホームに戻ると見知らぬ車両が停車
していた。



↑坂出駅で出会ったフリーゲージトレイン。

後から知ったのだが、四国でフリーゲージトレインの耐久走行試験をやっているらしく、それに出会えたと知って少し驚いた。



↑坂出駅から乗った普通琴平行。

坂出駅からは、普通琴平行に乗って、特急の乗換駅である多度津駅に向かった。
琴平行は2両編成という非常に短い編成で、セミクロスシートの車両であった。



↑多度津駅のホームの駅名板。

多度津駅で12時21分発の特急しおかぜ9号に乗って松山駅に向かった。
2時間ほど乗車して14時12分松山駅に到着した。

松山駅に到着後、解散して、伊予鉄道の市内電車で道後温泉に向かった。
道後温泉は愛媛県で最も有名な観光地の一つであり、日本最古の歴史を持つ温泉である。(諸説ある)



↑道後温泉の表札。

道後温泉は霊の湯と神の湯に分かれていて、御休憩場所があるかないか、また休憩場所の種類などによっても入浴料金が異なる。

僕は、一番安い神の湯の階下に入った。値段は大人400円である。

普通の銭湯と同じく、石けんやタオルなどはついていなくて、自分で購入しなければならなかった。貸しタオルは石けん付で60円。

持ち帰りのできる記念タオルは石けん付で210円であった。

お風呂は1種類しかなく、お湯は熱めであった。

シャワーの水があまり出ず、たまに止まってしまう点が少し不快に思った。

その後、道後温泉の前にある道後商店街で、松山名物の六時屋のタルトなどを購入して、次の目的地である坂の上の雲ミュージアムに行った。



↑『坂の上の雲ミュージアム』の入場門。この道を進むと受付がある

『坂の上のミュージアム』の主な展示は、小説『坂の上の雲』の舞台である幕末・明治の日本の様子や、資料・小説『坂の上の雲』に登場する主人公たちのエピソード、幕末明治の松山の様子などが展示されていた。坂の上の雲ミュージアムを見学後、再び伊予鉄道市内線を使い、松山駅で再集合した。

松山駅 18時16分発の普通伊予西条行で、伊予西条駅に向かった。
普通列車に2時間ほど乗車して、20時44分に伊予西条駅に到着した。



↑伊予西条駅の駅名板。



↑石鎚山登山の案内。

伊予西条駅は西日本で最も高い山である石鎚山の麓にあり、石鎚山登山の拠点の駅でもある。



↑西条市は石鎚山系のふもとにあり、古来より地下水が豊富で日本でも希少な地下水の自噴地帯であり、市内には多くのうちぬきという自噴井があり、伊予西条駅のホーム上と駅前にもうちぬきの給水所がある。

伊予西条駅では30分ほどの乗り換え時間があり、上の写真にあるうちめきの給水所で水を飲んでみた。給水所にはしっかりと柄杓が用意されていて、味は日本の名水百選に選ばれているとおり、とても冷たくておいしかった。

20時44分に普通高松行に乗車し、ジャンボフェリーに乗るため高松駅に向かった。



↑伊予西条に停車中の普通高松行。

3時間ほど乗車して、23時21分に坂出駅に到着。快速マリンライナー71号に乗り換えて、23時40分に高松駅に到着した。

高松駅から5分ほど歩いて、琴平電鉄の高松築港駅から出発しているジャンボフェリーの無料送迎バスの乗り場に向かった。

送迎バスの予約をしていなかったもので、大人数で乗れるか不安であったが、乗ることができてほっとした。

10分ほど送迎バスに乗車して、ジャンボフェリーの高松乗り場に到着した。

ジャンボフェリーの乗り場には、飲み物の自動販売機やカフェ（深夜のため営業は終了していた）などがあり、最低限の設備は整っているように見えた。

30分ほど待合室のような場所で待ち、24時40分ごろに乗船した。

ジャンボフェリーの客室は4階建てになっていて1階に乗船口があり、2階の客室には、リクライニングシートがある洋室や売店コーナーなどがあり、3階の客室には

横になって寝ることのできる和室、4階にはゲームコーナーやデッキなどがあった。僕は、まず2階のリクライニングシートの席を確保して、売店コーナーに行き、香川県名産の肉うどんを食べた。さすが本場ということもあってコシがあり、とてもおいしかった。

その後、香川県名物の讃岐うどんをお土産に購入して、眠りについた。揺れが少なく、船酔いをせずにぐっすり眠ることができた。

4時間ほど乗車して、神戸税関近くのジャンボフェリーの神戸乗り場に到着した。その後、ジャンボフェリー神戸乗り場から徒歩で三ノ宮駅に向かった。三ノ宮駅に行く途中には、日本一短い国道の国道174号線や、神戸税関、阪神・淡路大震災の追悼行事の会場で有名な東遊園地公園などがあった。



↑日本一短い国道の国道174号線の標識。長さは僅か187.1m。



↑神戸税関の正面玄関。



↑東遊園地公園にある阪神・淡路大震災の『慰霊と復興のモニュメント』。

阪神・淡路大震災で亡くなられた方々への慰霊と、復興への想いが刻まれている。

20分ほど歩き、三ノ宮駅に到着した。その後、三ノ宮駅6時3分発の快速米原行で京都駅に向かった。



↑車内には、夏の甲子園の広告などがあった。

1時間ほど乗車して、7時9分に京都駅に到着した。

京都駅に到着後、解散して、僕は五重塔で有名な東寺と清水寺に行った。

(豊橋駅で再集合した。)



↑写真では全体が写っていないが、五重塔で有名な『東寺』である。



↑清水寺の『仁王門』・『西門』・『三重塔』。

京都市内で、『東寺』と『清水寺』などを観光し、京都駅12時29分発のひかり520号に乗り、名古屋駅で13時28分発こだま656号に乗り換えて豊橋駅に向かった。車両はどちらも『700系新幹線』であった。

約1時間30分ほど乗車して、豊橋駅に到着した。

豊橋駅で14時5分発普通浜松に乗り換えて30分ほど乗車して、14時39分に浜松駅に到着した。

その後、浜松駅14時50分発普通静岡行に乗り換えて1時間ほど乗車して、16時1分に静岡駅に到着し、静岡駅16時5分発普通熱海行に乗り換えて1時間20分ほど乗車して、17時25分に熱海駅に到着した。

最後に熱海駅17時32分発快速アクティー東京行に乗り換えて1時間30分ほど乗車して、19時9分に東京駅に到着、解散して旅行は終わった。